

佐倉久隆氏の父上の作詩「渚(なぎさ)」について

4 組大野正夫:

先日の同窓会で、佐倉久隆氏の父君の満洲戦地からの歌が披露されました。よい歌だなと聞いておりました。帰路に、記念誌の中の佐倉氏のところを読み、父上が関東軍 2632 部隊に所属、病死となっておりました。私の小学校の恩師、増田昭一先生の父、増田清一氏は、2362 部隊の部隊長であることを、彼の生涯「大地の伝言」に書きました。あるいは「増田部隊」ではないかと思い、彼と接触したく、太田氏から住所を教えてくださいました。そこで彼に連絡をとりましたら、たくさんの郵便のなかから、検閲印に増田と押印のあるものが、届きました。

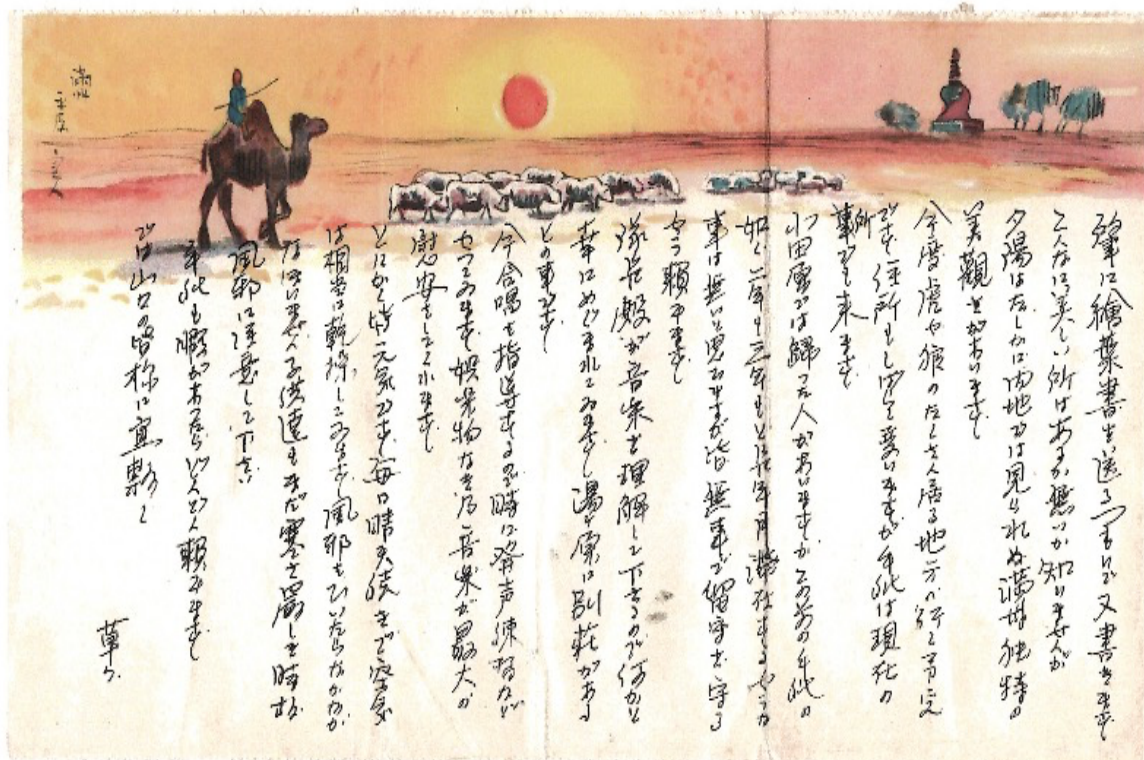
増田清一氏は、小田原中学を出て、旧制高校に行きたいという秀才であったが、軍人の父親から、「軍人の子は士官学校へ」と言われて、軍人の道を歩んだと昭一先生は言われた。中国の戦線で戦死者を出さないことを、いつも考えて作戦を練り、前線部隊で金殊勲賞をもらった。部下と雇いの満人(中国人)と区別せず、満人の子供が疫病になった時に、軍用電話で、医大に連絡を取り、ワクチンがあることを知って、医大に子供をゆかせて助かったという話も聞いた。

佐倉氏から届いた満洲からの便りのなかで「隊長殿が音楽に理解があり幸いである」と書かれ、軍隊内で、合唱の練習をしていた。その一つ

が、渚の作詩になったことを知った。陸軍というと、「ヒンタ」のこと、辛いことが、多く語られているが、増田部隊のようなところをあったと知った。

佐倉氏が父の足跡を追う番組があり、渚の演奏も聞けます

「昭和の遺書、よみがえる楽譜」で検索すると、日本テレビの30分ドキュメントで視聴できます。彼から届いた、父上が母君に送った手紙も添付します。



(完)